



よこと館だより



Est.1913

発行：至誠学舎立川 編集：法人事務局

理事長閑話 埋め草 58

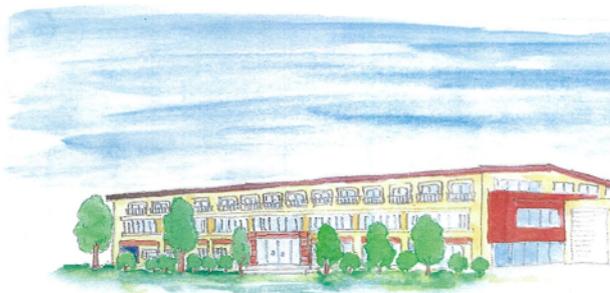
～いよいよ障害総合化施設建設始まる～

いよいよ長い準備期間を経た「至誠障害福祉総合センター」の建築が始まります。3月9日に入札があり4社が応札、昭島市の扶桑建設会社が税込み432,960,000円で落札してくださいました。建物は鉄筋三階建て延べ床面積1,357㎡(410坪)。建築には初度調弁、設計管理費用、その他事務費を含めて総事業費483,100,000円の事業となります。そのうち行政からの補助金73,500,000円(事業費の約15%)、福祉医療機構からの借入金172,000,000円、法人自己資金237,600,000円が資金計画です。事業内容は障害者グループホーム、生活介護、就労支援事業その他地域活動スペースを持つ複合型施設です。地鎮祭のあと工事は早々に着工、1年後には事業開始となります。

繰り返しになりますが、今回の事業は至誠学舎立川にとり画期的な事業といえます。先ずは事業内容が新しい障害福祉分野の事業に本格的に乗り出す事です。法人は戦前の少年保護事業から戦後の新しい憲法と社会福祉制度に則り児童養護、保育、高齢と3分野の仕事をしてきました。その中で児童養護施設の発展事業として小規模作業所「まことくらぶ」が20年前にスタートし今回大きく飛躍します。敷地は従来の至誠老人ホーム跡地で高齢事業と機能も連携します。整備資金は保育事業本部と児童事業本部が担いました。借入金返済は障害事業の自力努力で為します。ここに至誠学舎立川の総力を挙げての事業がスタートするのです。

理事長として創業者稲永久一郎先生の教えがここに生きたと感無量です。さあ、1年後に始まる新障害福祉事業の充実発展を心から祈り、その成就を念じます。

理事長 橋本正明



至誠障害福祉総合センター
(完成予想図)

絵コンテ：高橋久雄

事業本部長メッセージ

子どもたち、地域の皆さんやボランティアの皆さんが集い、恒例のこどもの日をお祝いして行われる「子どもたちの健やかな成長を祝うガーデンパーティー」ですが、今年も4月26日(日)に予定をして準備をすすめてきました。しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大防止および参加者の健康や安全への配慮から、今回は残念ながら「中止」とすることを決定しました。例年、法人内の各事業所からも参加いただき、楽しみにされていたことと思います。ご理解のほどよろしくお願い致します。

様々な思いを込めての「ありがとう」と「お元気で・・・」の機会が重なる涙の3月も過ぎ、すこしだけ後ろ髪を引かれる思いを残しながらも、年史を彩る2020年度がスタートします。

「はじめまして・・・」に大きな希望を感じながら、変化を楽しみ明るく笑顔で歩きだしましょう。



児童事業本部長 石田芳朗

事業本部情報

児童事業本部

新型コロナウイルスもどこ吹く風で、子ども達は毎日元気に園庭を走り回っています。社会的に様々な行動の自粛が求められる状況ですが、子ども達にとって大切な節目となる年度末の行事は、内容を縮小するなどして行ってまいりました。特に、至誠学園の『卒園式』と至誠大空の家の『大空にはばたく会』は、お客様をお呼びすることは出来ませんでした。園を巣立つ子ども達、生活を共にした子ども達、そして職員、それぞれの思いが込められた心温まる会となりました。新型コロナでささくれ立った心が洗われるかのような感動をもらいました。「この仕事をやっていて良かったな。」と改めて強く思われました。この感動を力にして令和2年度も職員、子ども達とともに希望を胸に頑張っていきたいと思えます。

(至誠大地の家 施設長 石田昌久)

保育事業本部

令和2年4月1日より梅丘分園が独立し本園となり、「梅丘至誠保育園」と名称を変えてスタートします。それと同時に、新たな分園「梅丘至誠パーチェ」がオープンします。3月21日には開所式・内覧会を終え、職員一同心をひとつにしました。

本園は今までの場所で0歳児から5歳児まで、パーチェは0歳児から2歳児まで総勢76名となりました。本園、分園少し離れてはいますが、ひとつ屋根の下の様に共同して取り組んで参ります。



分園のパーチェはイタリア語で「平和」を意味します。子ども達を、平和の象徴である“鳩”にみたと、平和な未来へと飛び立って欲しいとの願いから、保育園のロゴを“鳩”に決めました。

子ども達の羽ばたく未来が明るい未来であることを願いつつ、ご家庭と共に、地域と連携しながら「至誠の保育」に努めて参ります。世田谷区に梅丘至誠保育園として、新たな1ページを刻みます。どうぞ、よろしく願いいたします。

(梅丘至誠保育園 園長 安田 美抄子)



<開所式記念の写真>

高齢事業本部至誠ホーム

桜のつぼみも駆け足で満開となり、本来なら卒業式や入学式と希望に満ちた季節のはずが・・・。社会全体がどんよりとした、年度のスタートとなりましたが、おかげさまで至誠ホームオンニは満1歳。開設の年度を終え、2年目に突入しました。

振り返れば、4月に開設し初めての入居者を迎え、3つのユニットに入居者が暮らすようになり、「長寿を祝い会」「オンニまつり」と行事も重ねながら、「看取り」も経験しました。また、「看護小規模多機能型事業所」(通称かんたき)も、立川市では初めての事業でしたが、事業の在り方等に迷いながら、独り暮らしや高齢者世帯、若年性認知症や進行形の疾患の利用者のサポートと、できる限りのことを行っています。「特養」「かんたき」が両輪となり、微力ながら、地域の力になることができたかな、と感じているところです。そして2年目、初年度をベースに「オンニらしさ」、特色を出せるよう努力していきます。また、これまでの「コミ」「オンニ」の両ケアセンターのセンター長に加え、「至誠ホームオンニ」の園長を拝命いたしました。2歳になった「オンニ」よろしく願い致します。

(至誠ホームオンニ 園長 宮本智行)

本部事務局だより (デマと買い溜め)

新型コロナの感染拡大が続くなか、トイレットペーパーを中心に品切れが続いている。これは「中国で生産中止」「紙がマスクの原料となり品薄になる」などのデマが拡散した結果である。製紙業界や政府がデマだと否定しても、買い溜めは今なお続いている。テレビでスーパーの空棚ばかりが映されるとデマだと言われても、にわかには信じ難いのが人情である。「在庫は充分、生産も拡大するから一週間後には店頭並ぶ」と言われ、行って見ると、相変わらず空棚だと「やっぱり、買って置けば良かった!!」という心理がさらに強化され、買い溜めは一向に収まらない。1993年の平成の米騒動で米が店頭から消えた時、知人が120kgもの米を高額で手に入れて自慢していたが、2年たっても食べきれなかった事を思い出す。災害に備えて、生活必需品をある程度備蓄することは必要だが、デマだと判っていて高値で買い溜めに走るのは無駄というものだ。それにしても、花粉症の私のマスクは、何時になったら手に入るのだろうか？

(法人事務局長 野島 忠幸)

(編集後記)今年はお観測史上最も早く桜が開花されたようです。来年は、平和なお花見が出来ればと思います。<小>